

地域の用水を支える財宝「緑のダム」

① 7月2日(火) 2013七滝「水の森」植樹（森林学習会）

美郷町が主催した植樹事業が七滝水源涵養林にて行われました。植樹前に、「森林のはたらき」と題して学習会を開催。森林の多面的機能を説明し、植樹する意味を訴えました。

その後、ブナの苗木200本とホウノキ20本を植樹し、参加者全員で「育てブナの木」と呼び掛け苗木の成長を願いました。

② 7月17日(水) 川の生き物調査

藤木小学校4年生と美郷町六郷東根の上流を流れる湯田沢川にて水生生物調査及び植物観察会を実施しました。生き物の捕獲体験を行い、観察用水槽と図鑑を眺みながら生き物の特定をしました。

調査結果は、きれいな川に生息する生き物が多数発見され水質は良好であることが分かりました。

③ 9月30日(月) 清水の生き物調査

六郷小学校5年生と六郷湧水群にて生き物調査及び水質検査を行いました。今回は4箇所の清水を選定し、2グループに分かれて調査を行いました。生き物はイバラトミヨが多数確認され、児童たちは喜んでいました。水質はpHが6.5~7.0の間で中性であることも分かりました。

調査結果は、10月末に美郷町が開催した「美郷フェスタ」にて児童らが発表する機会にもなり、大きな成果を得られたと感じます。



活動体制	
実施主体	水土里ネット七滝（秋田県七滝土地改良区）
後援・連携	秋田県仙北地域振興局農林部、美郷町、社団法人東京生薬協会、日本航空株式会社
実施期間	7月2日、7月17日、9月30日
参加者	平成25年7月2日(火) 美郷町内全小学校4年生、保護者、美郷町民 220名 平成25年7月17日(水) 藤木小学校5年生21名、教諭5名 平成25年9月30日(月) 美郷町立六郷小学校5年生51名、教諭5名 延べ302名
報道関連	秋田県HP、美郷町HP、水土里ネット七滝HP、広報誌七滝
活動実施年数	6年目（H20年～）
連絡先	〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字米町29 秋田県七滝土地改良区 TEL. 0187-84-2137
その他	さなえ賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット七滝（藤岡 義博）					
○活動の目標及び達成率		目標	水の原点は水源涵養林であることを認識してもらう。		
		達成率	90%		
○活動に対する評価		・子供を通じて大人の参加も得られ、多くの参加者へ水源涵養林のPRをすることが出来た。			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	学校教育との連携により毎年恒例の行事として定着している。
①役職員・組合員の参加	A	総代・組合員から参加を得られるようになってきた。	③運動の計画性	B	水利施設を所有し管理もしていることでのPRが出来た。
②後継者育成の工夫	A	各種研修会へ職員が参加しスキルアップに努めている。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	A	役職員が一丸となり運動へ積極的に取り組み、役員は機会あることに総代や組合員へ運動の啓発をしている。
①基本理念の設定	A	植樹、生き物調査で地域自然の素晴らしさを感じ、水土里の役割を子供たちが理解し、子供から家族、地域住民へと伝えてもらう。	b. 地域農業	B	水源涵養林から湧き出る水が農業に欠かせないものだとなっている。
②地域の歴史等の伝承	A	水源涵養林をPRすると共に水源地の理解を深めてもらっている。	c. 地域コミュニティー	A	各種団体との連携が強化されてきた。
③運動の先駆性	B	他の手本となるよう取り組んでいる。	d. 地域資源管理	B	水利施設の管理方法、水土里ネットの役割の理解を深めてもらう大変良い機会となった。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について	・小学校と綿密な打合せを行い、連携を更に強化していく。	
①運動の継続性	A	小学校の要望も取り入れた運動を行い、経費も出来るだけ抑えている。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他